

令和2年9月25日

## 令和元年度「国語に関する世論調査」の結果について

文化庁では、国語施策の参考とするため、平成7年度から毎年「国語に関する世論調査」を実施しています。この度、令和元年度に実施した結果がまとまりましたので、発表します。

### 1 調査の概要

調査目的：日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象：全国16歳以上の男女

調査時期：令和2年2月～3月

調査方法：個別面接調査

回収結果：調査対象総数 3,557人  
有効回収数（率） 1,994人（56.1%）

### 2 調査項目

- ① 国語の乱れに対する関心
- ② 外国人と日本語
- ③ 敬語表現
- ④ 漢字表記
- ⑤ 五つの表現の使用と印象、慣用句等の意味・言い方 など

### 3 添付資料

- 令和元年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

<本件担当> 文化庁国語課  
国語課長 柳澤 好治 (内線 2837)  
国語調査官 武田 康宏 (内線 2841)  
国語調査官 町田 亙 (内線 2842)  
電話：03-5253-4111 (代表)  
03-6734-2840 (直通)

# 令和元年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

## 調査目的・方法等

調査目的：現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し，国語施策の立案に資するとともに，国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象：全国 16 歳以上の男女個人

調査時期：令和 2 年 2 月 27 日～3 月 15 日

調査方法：一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施

調査結果：調査対象総数	3,557	人	
有効回答数（率）	1,994	人	（ 56.1% ）



備考・百分比は各問いの回答者数を 100%として算出し、小数点第2位を四捨五入したため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数点第1位を四捨五入して示した。

# 目 次

## I 国語に対する認識

- ◆ 国語が乱れていると思うか…………… <問 1 >… 1

## II 外国人と日本語に関する意識

- ◆ 外国人と接する機会があるか…………… <問 2 >… 5
- ◆ やさしい日本語で外国人に対して伝える取組の存在を知っているか…………… <問 3 >… 8
- ◆ 日本在住の外国人に対して災害や行政の情報などを伝えるために必要な取組…………… <問 4 >… 8
- ◆ 日本在住の外国人は、どの程度日本語の会話ができるか…………… <問 5 >… 9
- ◆ 日本在住の外国人は、どの程度日本語の読み書きができるか…………… <問 6 >… 9
- ◆ 日本在住の外国人が日本語能力を身に付けるために必要な取組…………… <問 7 >… 10
- ◆ 外国人に対する日本語学習の手助けについてどう思うか…………… <問 8 >… 10

## III 敬語に関する言葉遣いに対する印象

- ◆ 「反省させていただきます」「待たれてください」などの言い方は気になるか…………… <問 9 >… 13

## IV 平成 22 年の常用漢字表改定で追加された漢字の印象

- ◆ (平成 22 年の常用漢字表改定で追加された漢字を使った)「萎縮」「払拭」などの漢字表記について、どのように感じるか…………… <問 10 >… 15

## V 新しい表現に対する印象や、慣用句等の認識と使用

- ◆ 「～活」「～ハラ」などの表現は気になるか…………… <問 11 >… 17
- ◆ 「手をこまねく」「敷居が高い」等の慣用句は、どちらの意味だと思うか…………… <問 12 >… 21
- ◆ 「雪辱を果たす/雪辱を晴らす」等の言い方は、どちらを使うか…………… <問 13 >… 23

# I 国語に対する認識

\* 報告書でのページ数

国語が乱れていると思うか<問1>(P.3\*)

—「乱れていると思う(計)」は6割台半ば、過去の調査と比較すると減少傾向が明確に—

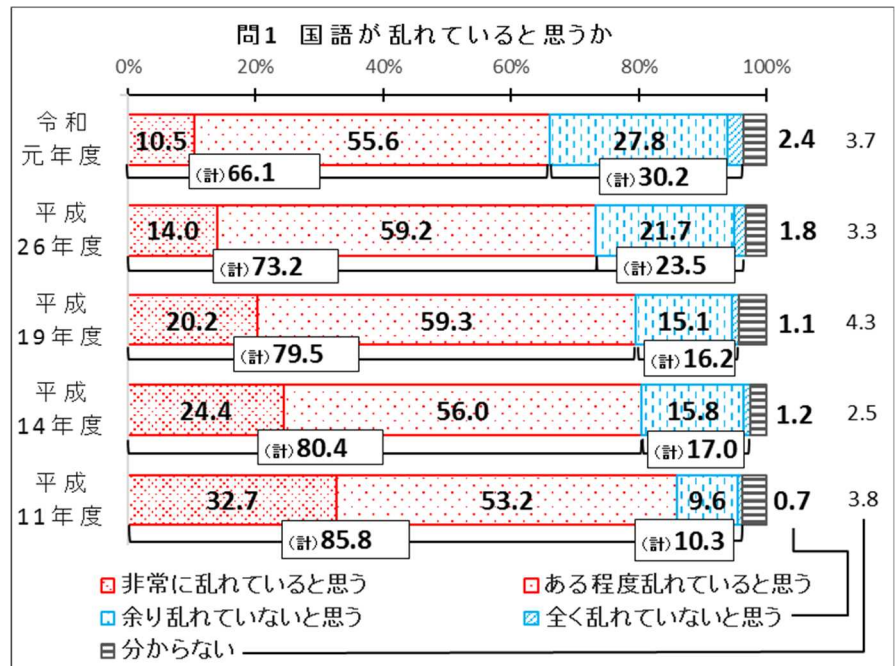
## 〔全体・過去の調査との比較〕

ふだんの生活の中で接している言葉から考えて、今の国語は乱れていると思うかを尋ねた。

結果は、「非常に乱れていると思う」を選択した人の割合が10.5%、「ある程度乱れていると思う」が55.6%で、この二つを合わせた「乱れていると思う(計)」は66.1%となっている。一方、「全く乱れていないと思う」は2.4%、「余り乱れていないと思う」は27.8%で、この二つを合わせた「乱れていないと思う(計)」は30.2%となっている。

過去の調査結果(平成11, 14, 19, 26年度)と比較すると、右のグラフのとおり。

「乱れていると思う(計)」は、平成11年度調査(85.8%)から今回調査(66.1%)に掛けて減少傾向にあり、前回の平成26年度調査(73.2%)から7ポイント減少している。

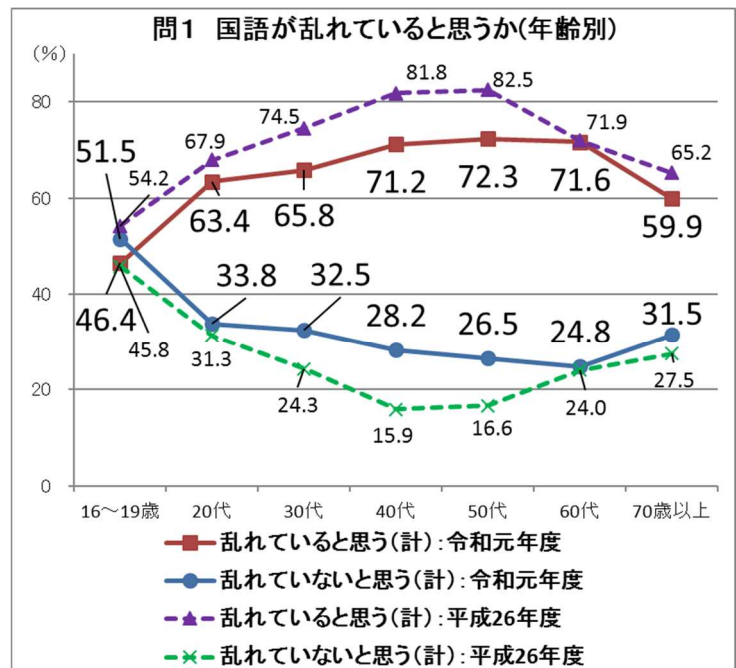


## 〔年齢別・過去の調査との比較〕

年齢別に過去の調査結果(平成26年度)と比較すると、右のグラフのとおり。

今回の調査では、「乱れていると思う(計)」の割合は40代~60代で7割を超えている。

平成26年度調査と比較すると、「乱れていると思う(計)」の割合はほとんどの年代で減少傾向にあり、中でも30代~50代では、それぞれ約10ポイント減少している。



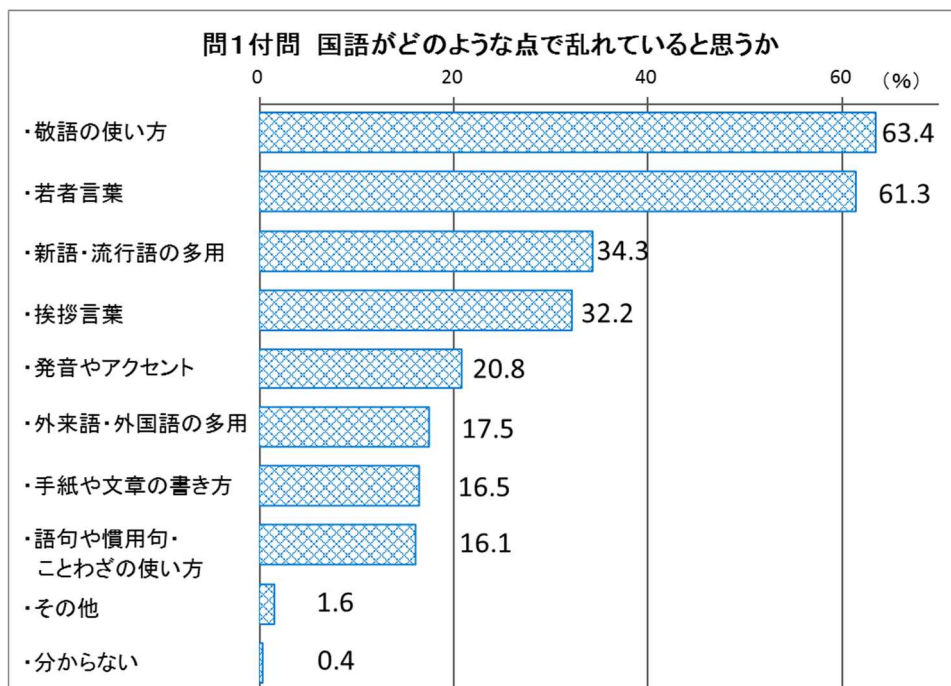
国語がどのような点で乱れていると思うか<問1付問1>(P.6)

—「敬語の使い方」と「若者言葉」が6割台前半と高い—

〔全体〕

問1で国語が「非常に乱れていると思う」と「ある程度乱れていると思う」を選択した人(66.1%)に、どのような点で乱れていると思うかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)。結果は次のグラフのとおり。

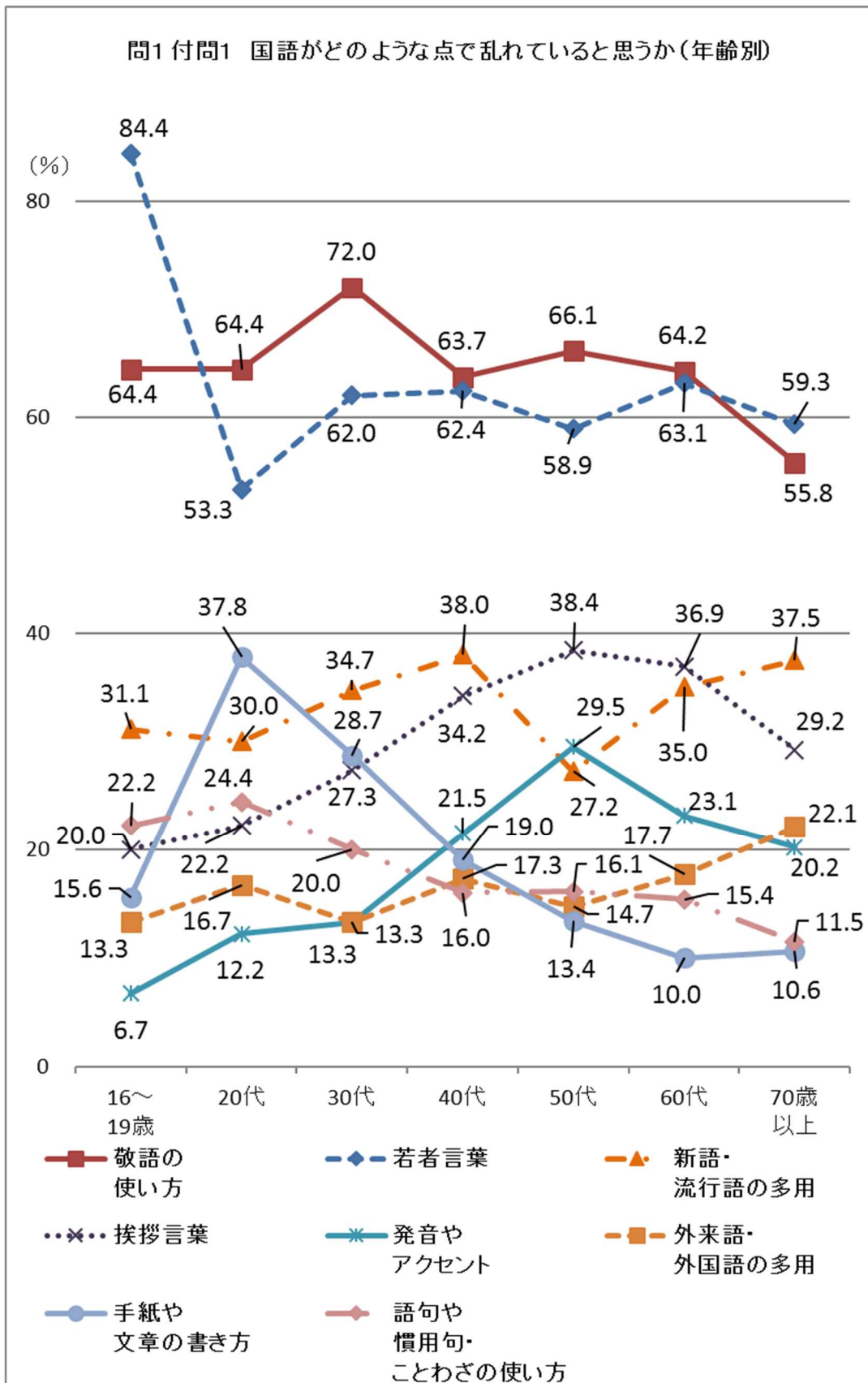
「敬語の使い方」(63.4%)、「若者言葉」(61.3%)の割合が他に比べて高く、それぞれ6割を超えている。次いで「新語・流行語の多用」(34.3%)、「挨拶言葉」(32.2%)が3割を超えている。



〔年齢別〕

国語がどのような点で乱れていると思うかについて、年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「敬語の使い方」は、30代で他の年代より高く72.0%となっている。「若者言葉」は、16～19歳で他の年代より高く84.4%となっている。「挨拶言葉」と「発音やアクセント」は50代で、「手紙や文章の書き方」と「語句や慣用句・ことわざの使い方」は20代で、それぞれ他の年代より高くなっている。



国語が乱れていないと思う理由〈問1付問2〉(P.8)

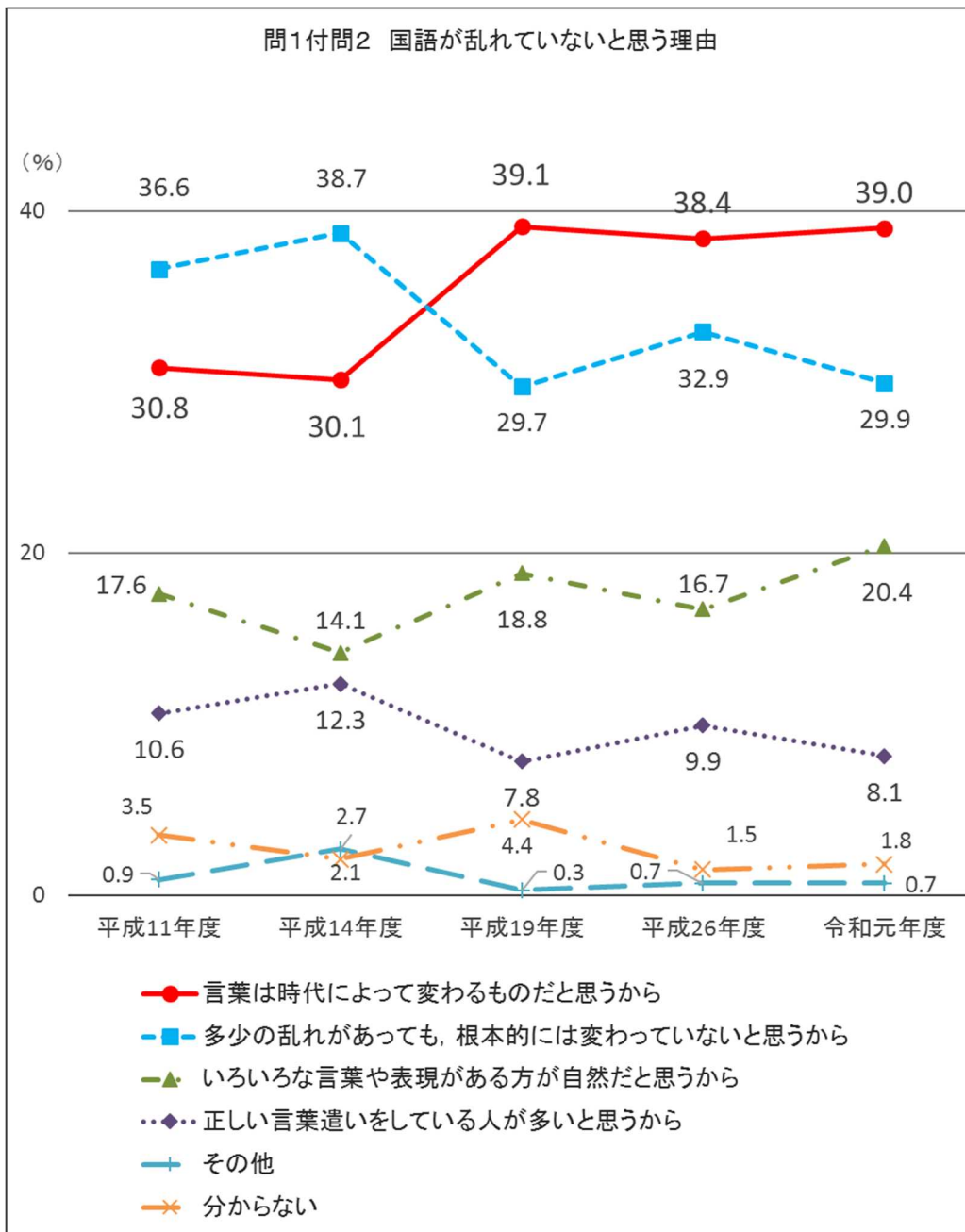
—「言葉は時代によって変わるものだと思うから」が約4割と高い—

〔年齢別・過去の調査との比較〕

問1で国語が「余り乱れていないと思う」と「全く乱れていないと思う」を選択した人(30.2%)に、乱れていないと思うのはどのような理由からかを尋ねた。結果は次のグラフのとおり。

「言葉は時代によって変わるものだと思うから」が39.0%で最も高く、次いで「多少の乱れがあっても、根本的には変わっていないと思うから」が29.9%、「いろいろな言葉や表現がある方が自然だと思うから」が20.4%となっている。

過去の調査結果(平成11, 14, 19, 26年度)と比較すると、平成26年度調査から今回調査に掛けて「いろいろな言葉や表現がある方が自然だと思うから」が4ポイント増加し、「多少の乱れがあっても、根本的には変わっていないと思うから」が3ポイント減少している。





## Ⅱ 外国人と日本語に関する意識

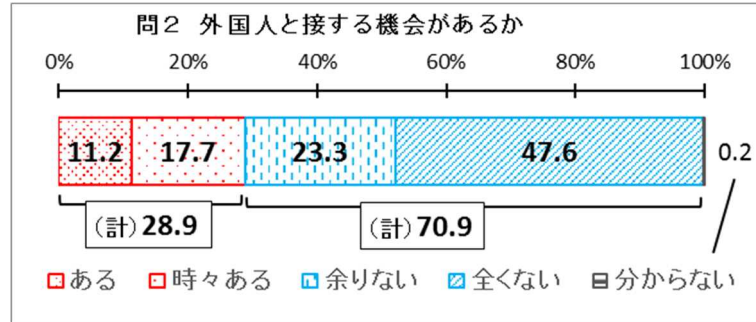
外国人と接する機会があるか<問2> (P.9)

—「ある」と「時々ある」を選択した人が合わせて3割弱—

### 〔 全体 〕

外国人と接する機会（挨拶程度や、店で買い物をする際のやり取りなども含む）があるかを尋ねた。結果は、次のグラフのとおり。

「ある」（11.2%）と「時々ある」（17.7%）を合わせた「ある（計）」は 28.9%となっている。一方、「全くない」（47.6%）と「余りない」（23.3%）を合わせた「ない（計）」は 70.9%となっている。

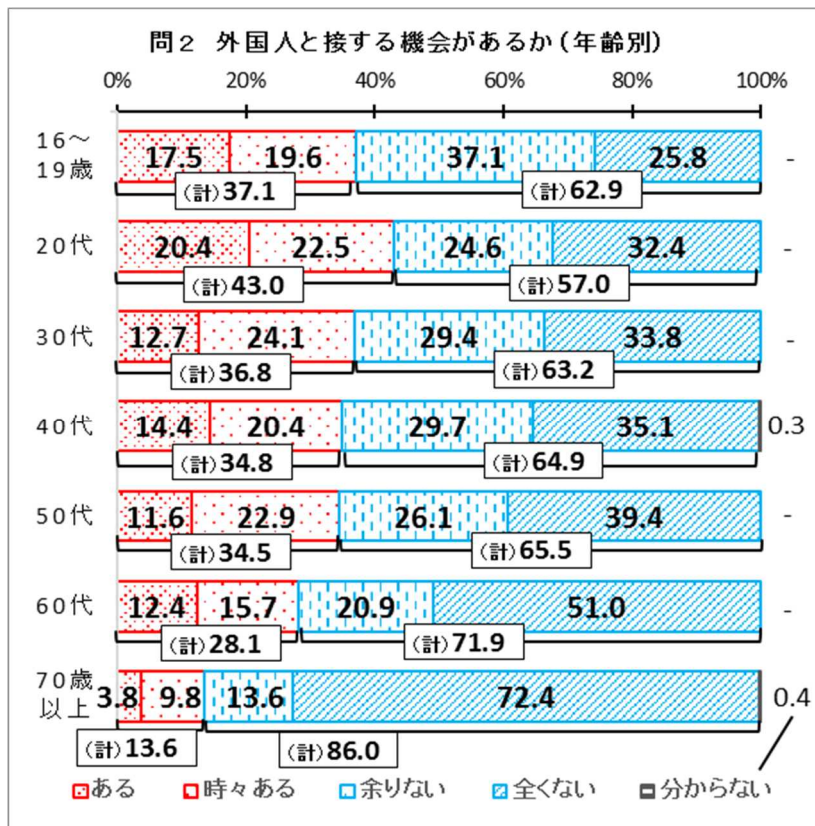


### 〔 年齢別 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「ある」と「時々ある」を合わせた「ある（計）」は、20代（43.0%）が最も高く、20代から70歳以上（13.6%）に掛けて、年齢が上がるに従って割合が低くなっている。

「全くない」は、70歳以上が72.4%と、他の年代より高くなっている。



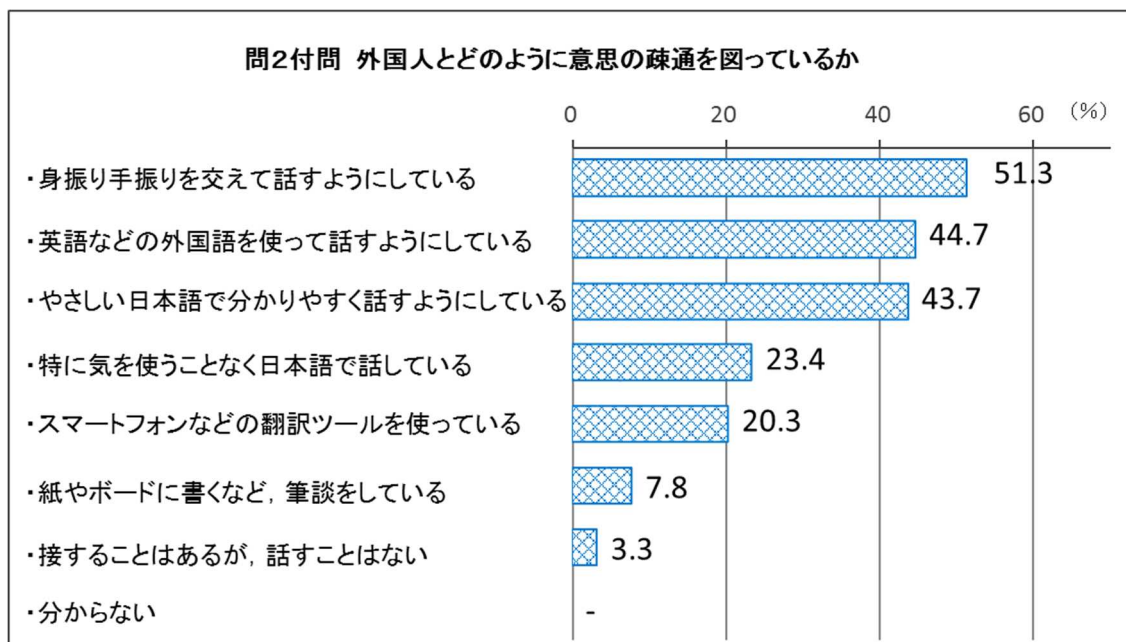
外国人とどのように意思の疎通を図っているか<問2付問>(P.11)

—「英語などの外国語」と「やさしい日本語」を使うのは、それぞれ4割台半ば—

〔全体〕

外国人と接する機会が「ある」、「時々ある」を選択した人(全体の 28.9%)に、外国人とどのように意思の疎通を図っているかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。結果は、次のグラフのとおり。

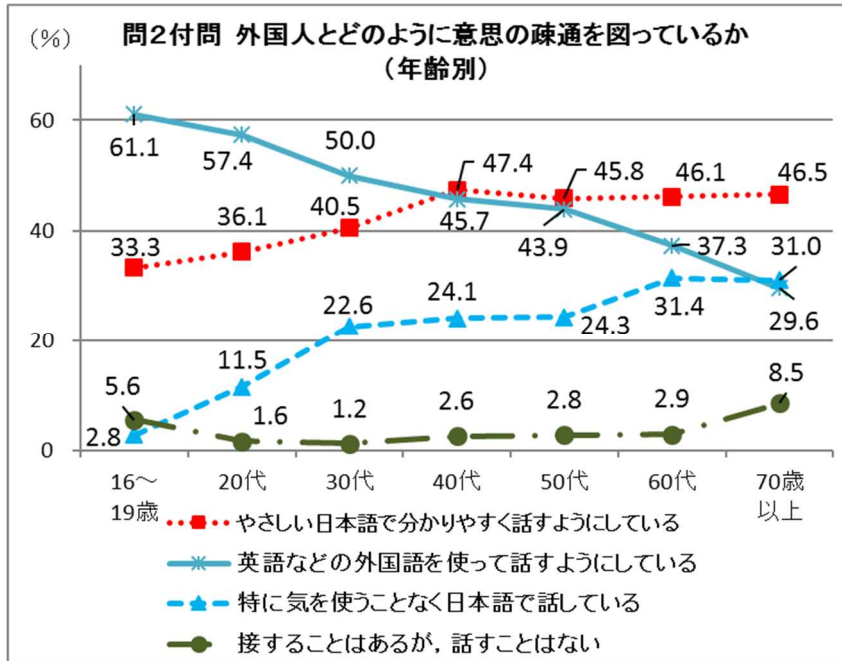
「身振り手振りを交えて話すようにしている」が 51.3%で最も高く、次いで「英語などの外国語を使って話すようにしている」(44.7%)と「やさしい日本語で分かりやすく話すようにしている」(43.7%)が 4 割台前半となっている。一方、「接することはあるが、話すことはない」は 3.3%となっている。



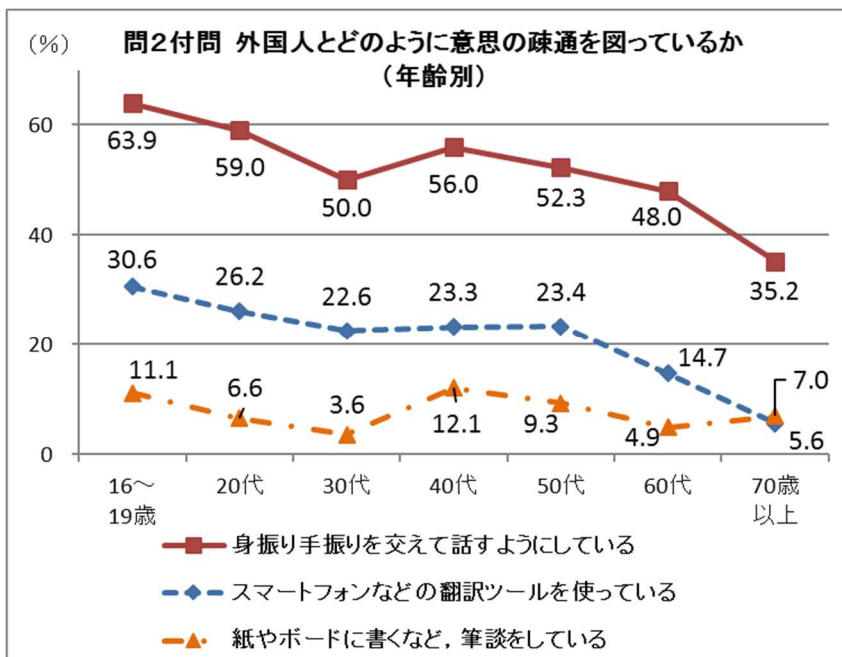
〔年齢別〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。上のグラフは、話し言葉に関する選択肢についてのもの、下のグラフは、話し言葉以外のコミュニケーションに関する選択肢についてのものである。

「英語などの外国語を使って話すようにしている」は、年代が下がるに従って割合が高くなっている。「特に気を使うことなく日本語で話している」は、60代以上で他の年代より高く3割強となっている。



「身振り手振りを交えて話すようにしている」は、16～19歳が他の年代より高く63.9%となっている。「スマートフォンなどの翻訳ツールを使っている」は、60代以上が他の年代より低くなっている。



やさしい日本語で外国人に対して伝える取組の存在を知っているか<問3> (P.12)

—「知っている」は約3割—

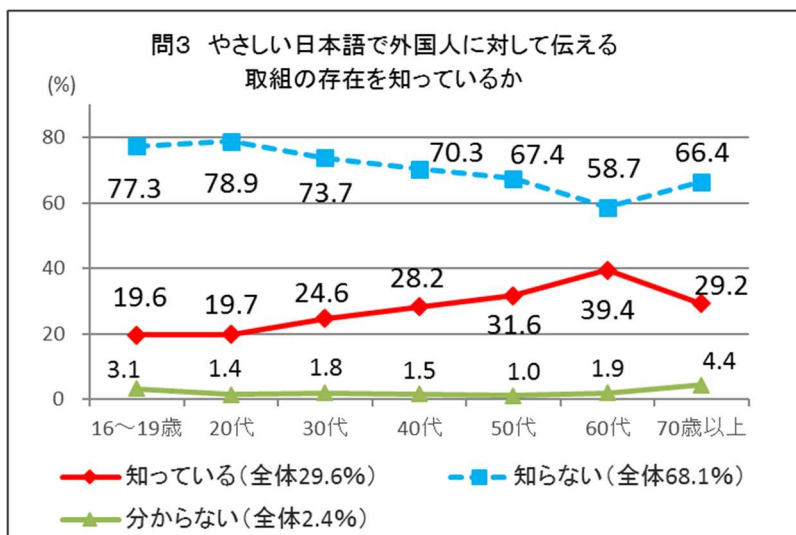
〔全体・年齢別〕

日本に住んでいる外国人に対して、災害や行政に関する情報などを、やさしい日本語で分かりやすく伝えようという取組が始まっていることを知っているかを尋ねた。

結果は、「知っている」が29.6%、「知らない」が68.1%となっている。

年齢別に見ると、右のグラフのとおり。

「知っている」は、60代で他の年代より高く39.4%となっている。一方、「知らない」は、20代以下で他の年代より高く7割台後半となっている。



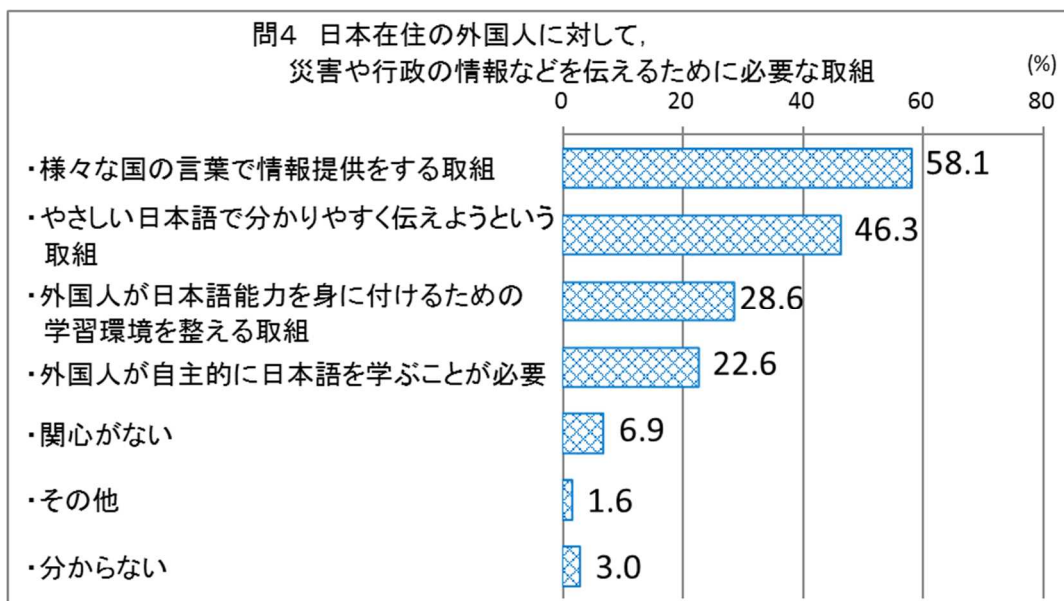
日本在住の外国人に対して災害や行政の情報などを伝えるために必要な取組<問4> (P.14)

—「様々な国の言葉で情報提供をする取組」が6割弱—

〔全体〕

日本に住んでいる外国人に対して、災害や行政に関する情報などを伝えるために、どのような取組が必要だと思うかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。結果は次のグラフのとおり。

「様々な国の言葉で情報提供をする取組」が58.1%で最も高く、次いで「やさしい日本語で分かりやすく伝えようという取組」(46.3%)となっている。



日本在住の外国人は、どの程度日本語の会話ができるかと思うか〈問5〉(P.16)

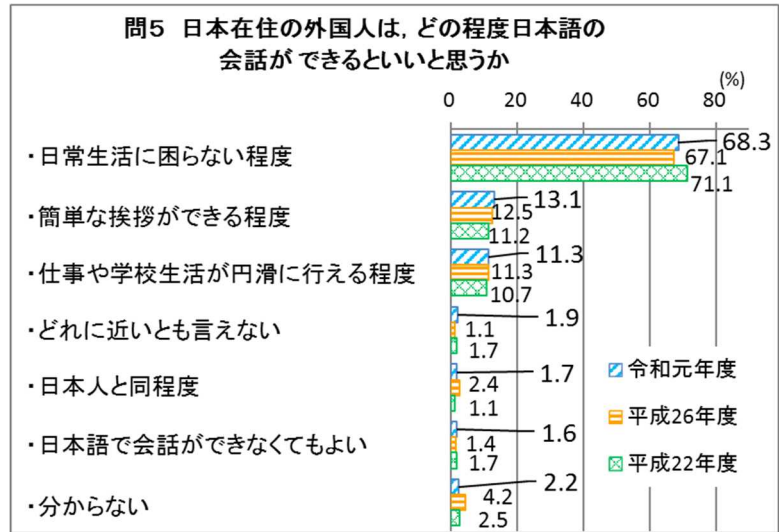
—「日常生活に困らない程度」が約7割と最も高い—

〔全体・過去の調査との比較〕

日本に住んでいる外国人はどの程度日本語の会話ができるかと思うかを尋ねた。結果は右のグラフのとおり。

「日常生活に困らない程度」が 68.3%と最も高くなっている。次いで「簡単な挨拶ができる程度」が 13.1%、「仕事や学校生活が円滑に行える程度」が 11.3%となっている。

過去の調査結果(平成 22 年度, 26 年度)と比較すると、平成 26 年度調査から大きな変化は見られない。



日本在住の外国人は、どの程度日本語の読み書きができるかと思うか〈問6〉(P.18)

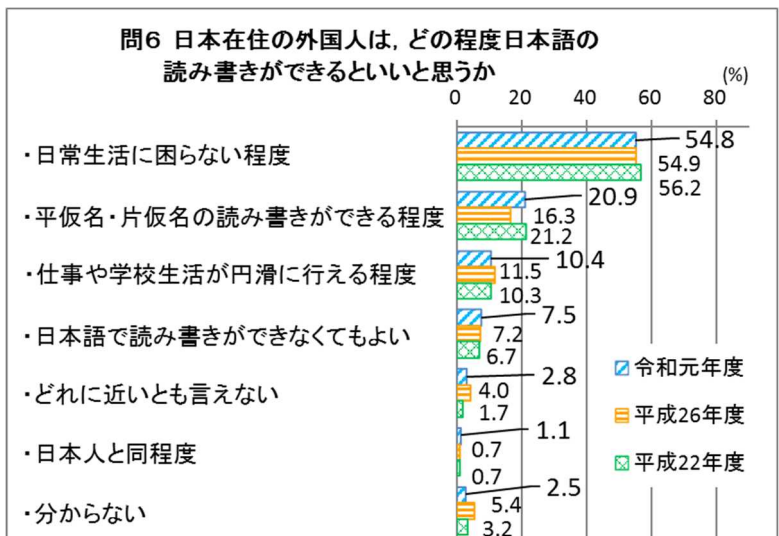
—「日常生活に困らない程度」が 54.8%と最も高い—

〔全体・過去の調査との比較〕

日本に住んでいる外国人はどの程度日本語の読み書きができるかと思うかを尋ねた。結果は右のグラフのとおり。

「日常生活に困らない程度」が 54.8%と最も高く、次いで「平仮名・片仮名の読み書きができる程度」が 20.9%となっている。

過去の調査結果(平成 22, 26 年度)と比較すると、「平仮名・片仮名の読み書きができる程度」は平成 26 年度調査から今回調査に掛けて 5 ポイント増加している。



〔問5と問6の比較〕

問5「日本在住の外国人は、どの程度日本語の会話ができるかと思うか」と問6「日本在住の外国人は、どの程度日本語の読み書きができるかと思うか」の結果を比較すると、どちらも「日常生活に困らない程度」が最も高く、問5で 68.3%、問6で 54.8%となっている。一方、「日本語で会話ができなくてもよい」が 1.9%、「日本語で読み書きができなくてもよい」が 7.5%となっている。

日本在住の外国人が日本語能力を身に付けるために必要な取組<問7>(P.20)

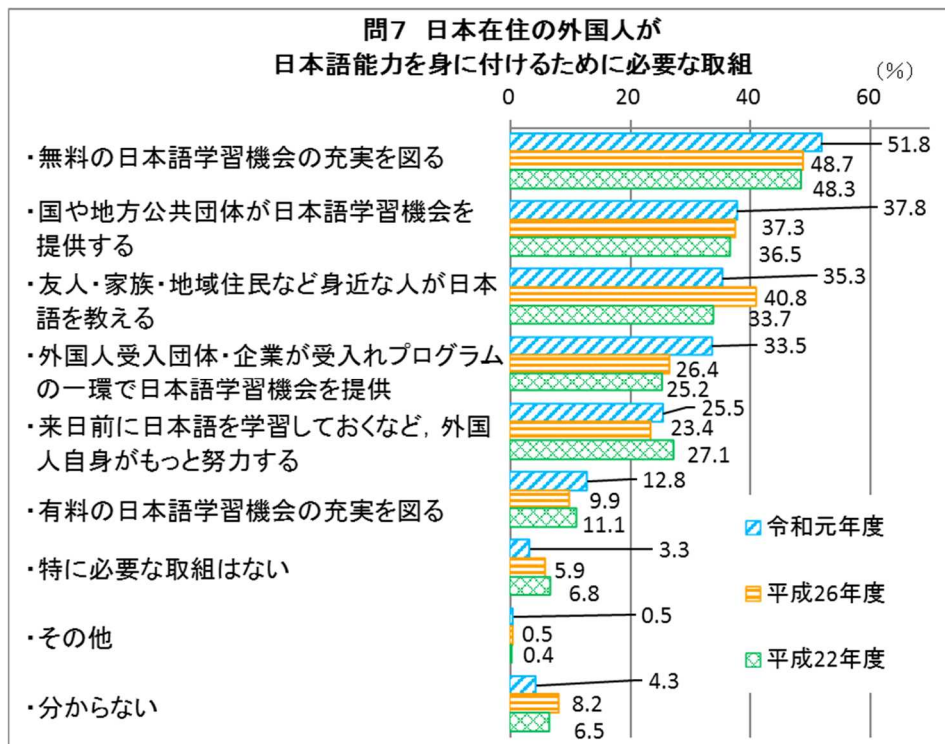
—「外国人受入団体・企業が受入れプログラムの一環として日本語学習機会を提供する」が増加—

〔全体・過去の調査結果との比較〕

日本に住んでいる外国人が日本語能力を身に付けるために、どのような取組が必要だと思うかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。結果は次のグラフのとおり。

「無料の日本語学習機会(例:ボランティアによる日本語教室等)の充実を図る」が 51.8%で最も高く、次いで「国や地方公共団体が日本語学習機会を提供する」が 37.8%、「友人・家族・地域住民など身近な人が日本語を教える」が 35.3%、「外国人受入団体・企業が受入れプログラムの一環として日本語学習機会を提供する」が 33.5%となっている。「特に必要な取組はない」は 3.3%となっている。

過去の調査結果(平成 22, 26 年度)と比較すると、「外国人受入団体・企業が受入れプログラムの一環として日本語学習機会を提供する」は、平成 26 年度調査から今回調査に掛けて 7 ポイント増加している。一方、「友人・家族・地域住民など身近な人が日本語を教える」は平成 26 年度調査から今回調査に掛けて 6 ポイント減少している。



(平成 22 年度調査は一部選択肢が異なる)

外国人に対する日本語学習の手助けについてどう思うか<問8>(P.23)

—「参加してみたい(計)」が増加—

〔全体・過去の調査結果との比較〕

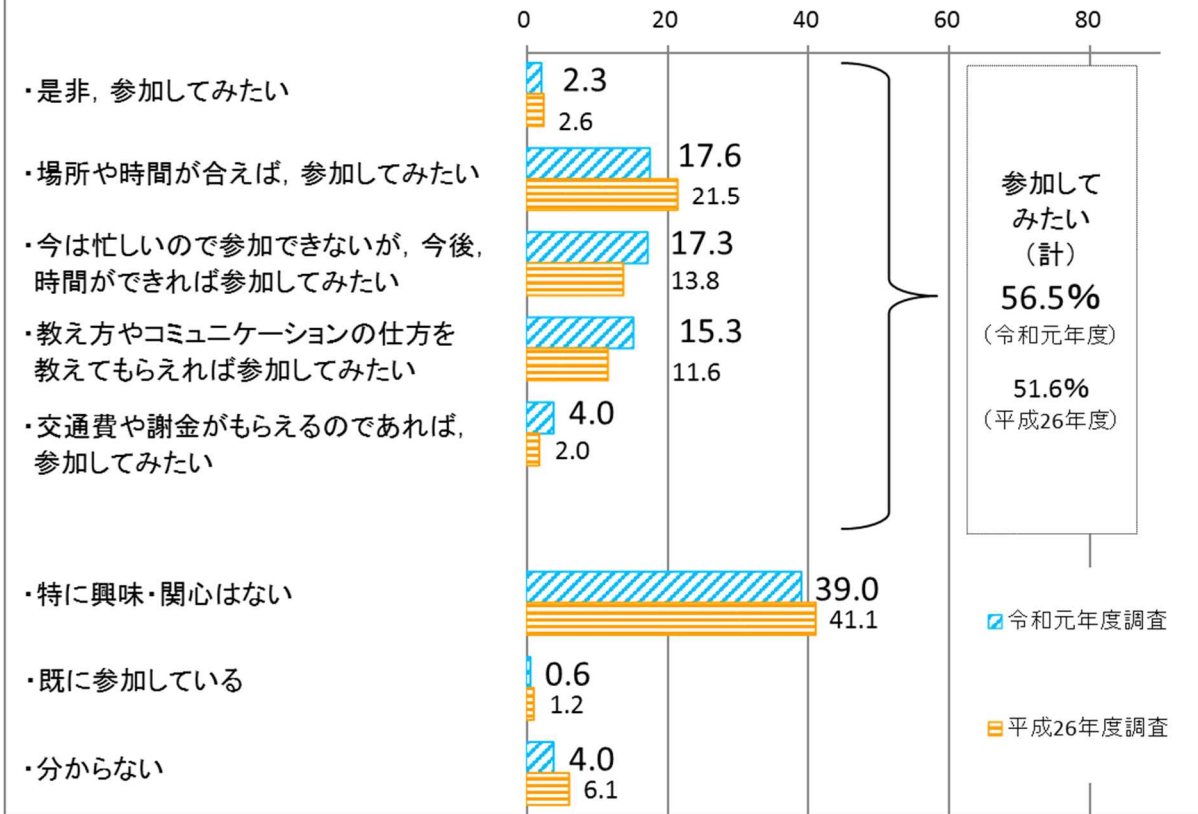
外国人への日本語学習の手助けについてどう思うかを尋ねた。結果は次のグラフのとおり。

「是非、参加してみたい」が 2.3%、「場所や時間が合えば、参加してみたい」が 17.6%、「今は仕事や子育てなどが忙しいので参加できないが、今後、時間ができれば参加してみたい」が 17.3%、「事前に日本語の教え方や外国人とのコミュニケーションの仕方を教えてもらえるのであれば、参加してみたい」が 15.3%、「交通費や謝金がもらえるのであれば、参加してみたい」が 4.0%で、これらを合わせた「参加してみたい(計)」は 56.5%となっている。一方、「特に興味・関心はない」は 39.0%となっている。また、「既に参加している」は 0.6%となっている。

過去の調査結果(平成 26 年度)と比較すると、「場所や時間が合えば、参加してみたい」は、平成 26 年度調査から今回調査に掛けて 4 ポイント減少している。一方、「今は仕事や子育てなどが忙しいので参加できないが、今後、時間ができれば参加してみたい」と「事前に日本語の教え方や外国人とのコミュニケーションの仕方を教えてもらえるのであれば、参加してみたい」は、平成 26 年度調査から今回調査に掛けてそれぞれ 4 ポイント増加している。

問8 外国人に対する日本語学習の手助けについてどう思うか

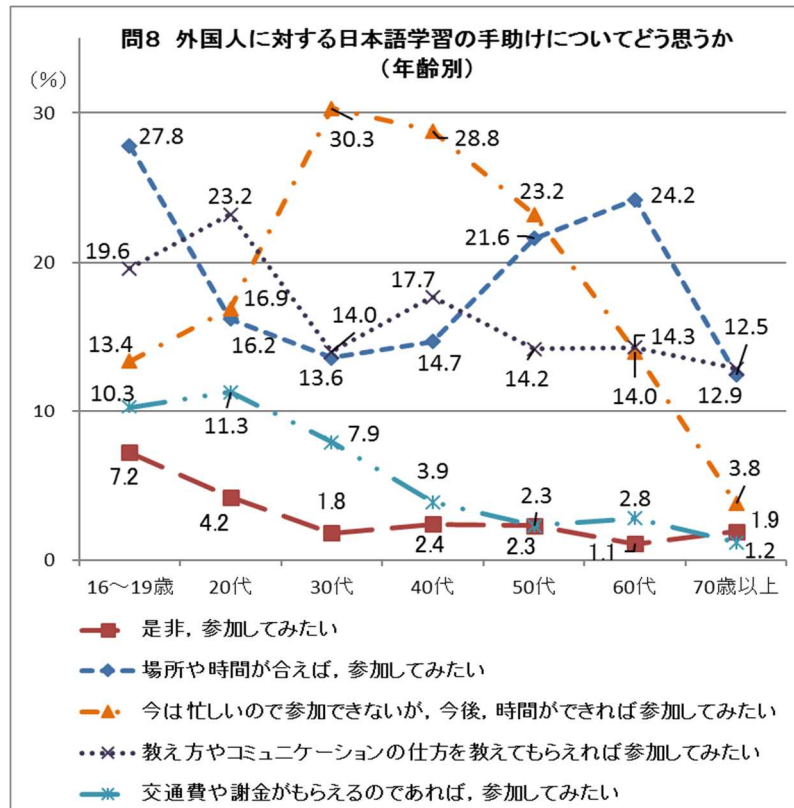
(%)



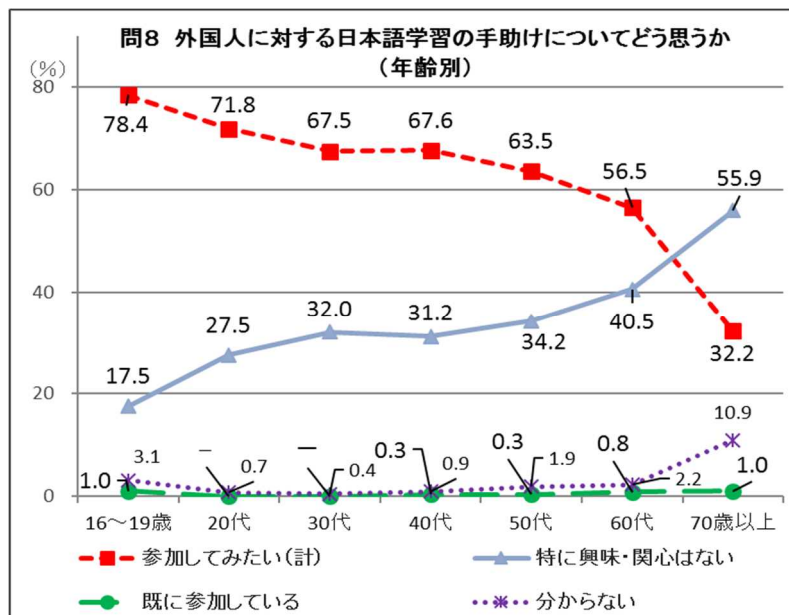
〔年齢別〕

年齢別に見ると、次の二つのグラフのとおり。上のグラフは、「参加してみたい」という選択肢を選んだ人について細かく見たもの、下のグラフは、それらを合計した「参加してみたい(計)」と、そのほかの選択肢を併せて見たものである。

「是非、参加してみたい」は、16～19歳で他の年代より高く7.2%となっている。「場所や時間が合えば、参加してみたい」は、16～19歳と50～60代で他の年代より高く2割台となっている。「今は仕事や子育てなどが忙しいので参加できないが、今後、時間ができれば参加してみたい」は、30～40代で他の年代より高く約3割となっている。「事前に日本語の教え方や外国人とのコミュニケーションの仕方を教えてもらえるのであれば、参加してみたい」は、20代で他の年代より高く23.2%となっている。「交通費や謝金がもらえるのであれば、参加してみたい」は、20代以下で他の年代より高く1割強となっている。



「特に興味・関心はない」は、70歳以上で他の年代より高く55.9%となっている。





### Ⅲ 敬語に関する言葉遣いに対する印象

「反省させていただきます」「待たれてください」などの言い方は気になるか<問9>(P.26)  
 —「昼食はもう頂かれましたか」は「気になる」が14ポイント増加—

#### 〔全体・過去の調査結果との比較〕

「誠に申し訳なく、深く反省させていただきます」「こちらで待たれてください」など、下線部の八つの言い方を挙げて、気になるかどうかを尋ねた。結果は次の表のとおり。

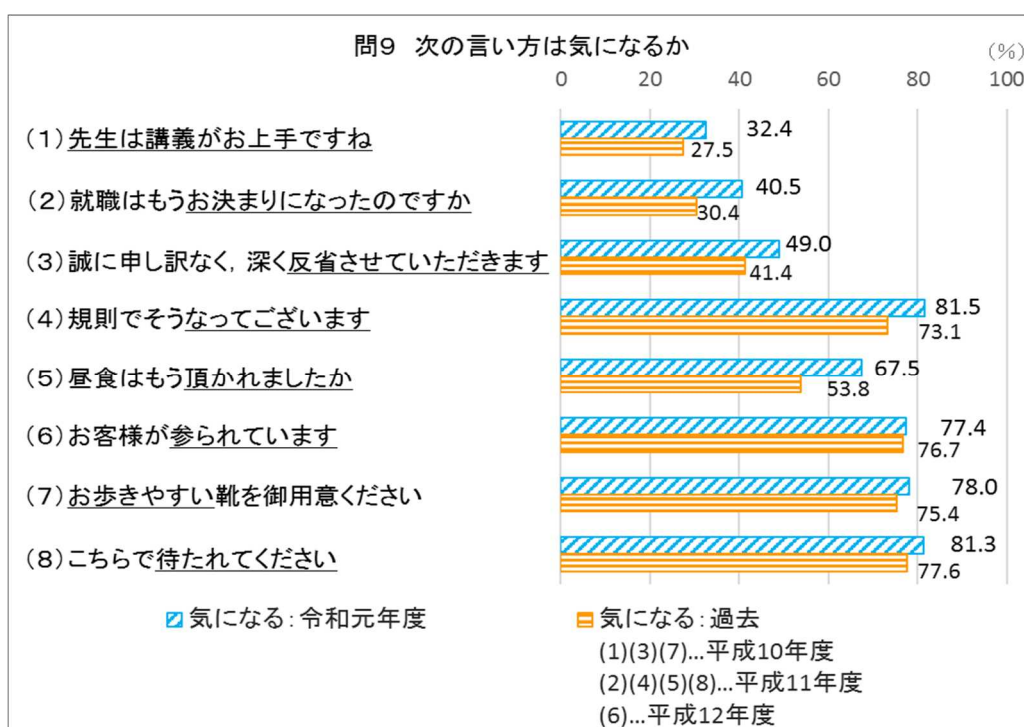
「気になる」は、「(4)規則でそうなってございます」が最も高く81.5%、次いで「(8)こちらで待たれてください」が81.3%、「(7)お歩きやすい靴を御用意ください」が78.0%、「(6)お客様が参られています」が77.4%となっている。一方、「(1)先生は講義がお上手ですね」は32.4%、「(2)就職はもうお決まりになったのですか」は40.5%となっている。

過去の調査結果((1)(3)(7)は平成10年度,(2)(4)(5)(8)は平成11年度,(6)は平成12年度)と比較すると、結果は下のグラフのとおり。

「気になる」は、(1)～(8)の全てで増加傾向にある。中でも、「(5)昼食はもう頂かれましたか」は14ポイント、「(2)就職はもうお決まりになったのですか」は10ポイント、「(4)規則でそうなってございます」は8ポイント、それぞれ「気になる」が増加している。

問9 次の言い方は気になるか(数字は%)

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	分からない
(1)先生は講義がお上手ですね	32.4	62.9	3.3	1.4
(2)就職はもうお決まりになったのですか	40.5	55.5	3.0	1.1
(3)誠に申し訳なく、深く反省させていただきます	49.0	48.0	2.3	0.7
(4)規則でそうなってございます	81.5	15.8	1.6	1.1
(5)昼食はもう頂かれましたか	67.5	29.8	2.1	0.6
(6)お客様が参られています	77.4	20.7	1.3	0.6
(7)お歩きやすい靴を御用意ください	78.0	20.0	1.4	0.6
(8)こちらで待たれてください	81.3	17.2	1.0	0.5



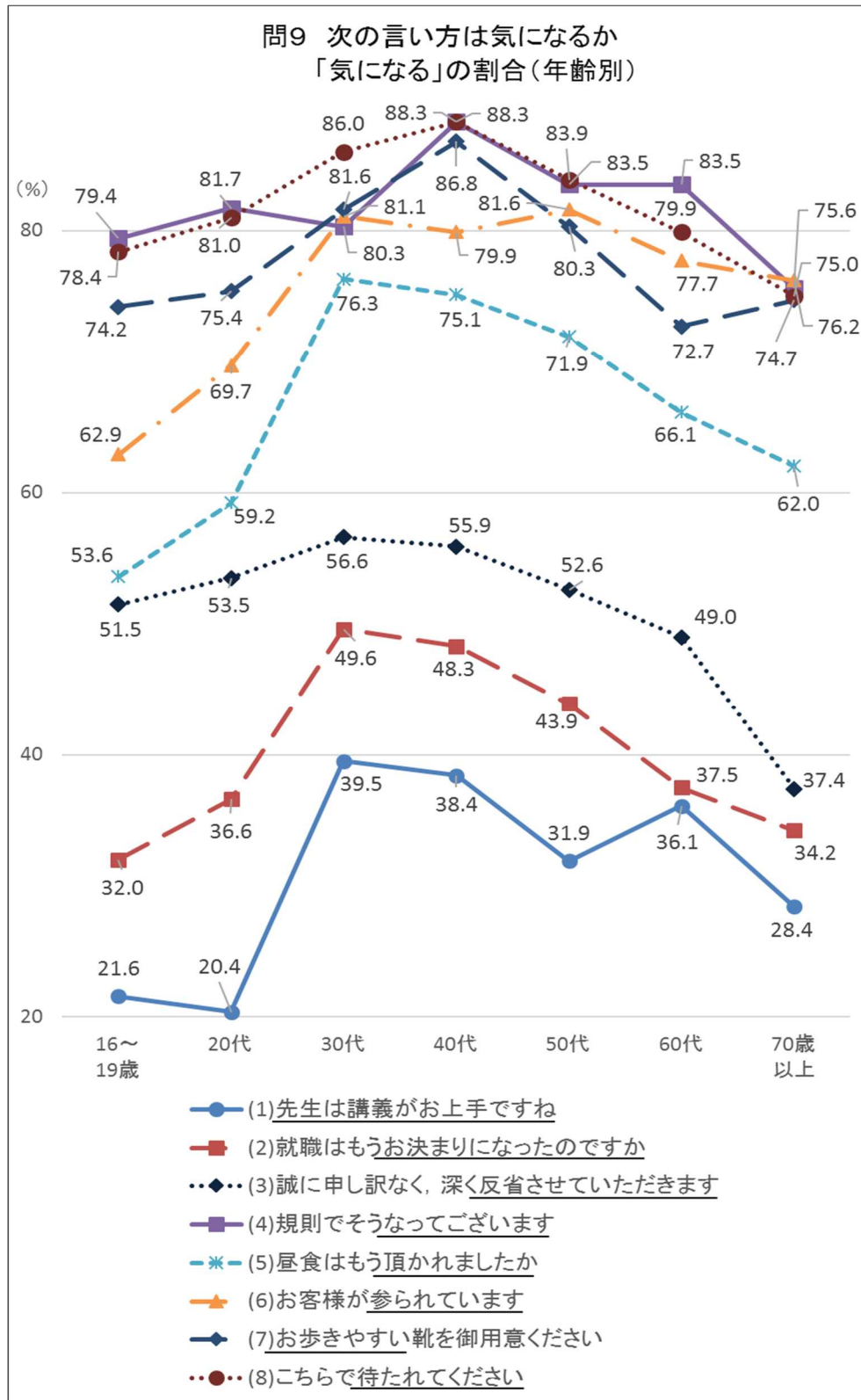
〔年齢別〕

(1)～(8)のそれぞれの言い方について、年齢別に「気になる」の割合を見ると、次のグラフのとおり。

「(1)先生は講義がお上手ですね」, 「(2)就職はもうお決まりになったのですか」, 「(5)昼食はもう頂かれましたか」, 「(6)お客様が参られています」は、「気になる」が20代以下で他の年代より低くなっている。

「(3)誠に申し訳なく、深く反省させていただきます」は、「気になる」が70歳以上で他の年代より低く37.4%となっている。

「(4)規則でそうなってございます」, 「(7)お歩きやすい靴を御用意ください」, 「(8)こちらで待たれてください」は、「気になる」が全ての年代で7割以上となっている。また、それぞれ40代で他の年代より高く8割台後半となっている。



## IV 平成 22 年の常用漢字表改定で追加された漢字の印象

(平成 22 年の常用漢字表改定で追加された漢字を使った)「萎縮」「払拭」などの漢字表記について、どのように感じるか〈問 10〉(P.32)

—「読みにくい(計)」は、「隠蔽」「憂鬱」は減少、「錦秋」「歯牙」は増加—

### 〔全体・過去の調査との比較〕

(1)～(28)の文を提示して、下線部の漢字表記を見て、どのように感じるかを尋ねた。結果は、下の表のとおり。

〈問 10 次の漢字表記について、どのように感じるか〉(数字は%, 下線は追加漢字)

	漢字を使うことで、意味の把握が容易になる		読みにくいで、振り仮名を付けるのが望ましい		読みにくいで、仮名書きが望ましい		分からない	
	令和元年度	平成21年度	令和元年度	平成21年度	令和元年度	平成21年度	令和元年度	平成21年度
(1) 気持ちが <u>萎縮</u> する	55.9	65.2	37.5	30.1	5.3	3.9	1.3	0.8
(2) 彼は驚くほど語 <u>彙</u> が豊富だ	25.5	22.4	60.9	61.7	11.6	14.3	2.0	1.6
(3) <u>憂鬱</u> な気分が続く	53.0	47.5	37.3	44.1	8.6	7.7	1.1	0.7
(4) <u>歯牙</u> にも掛けない	35.3	52.1	53.2	41.9	9.7	5.1	1.9	0.8
(5) 氏名を <u>楷書</u> で書く	54.2	66.8	37.2	27.0	7.3	5.6	1.3	0.6
(6) <u>俳諧</u> の研究を続ける	36.4	46.9	51.3	45.8	10.5	6.2	1.8	1.0
(7) 決戦の火 <u>蓋</u> を切る	58.3	67.6	35.3	27.6	5.0	4.3	1.5	0.5
(8) 名誉を <u>毀損</u> する	33.1	27.7	54.0	60.4	11.5	10.8	1.4	1.1
(9) <u>錦秋</u> の京都を訪ねる	30.0	48.6	57.4	43.7	10.7	6.7	1.9	1.0
(10) 彼の将来を危 <u>惧</u> する	58.3	61.6	35.2	33.9	5.2	3.6	1.4	0.9
(11) 右 <u>舷</u> 前方に見える客船	38.8	45.9	49.9	45.9	9.3	7.1	2.0	1.2
(12) <u>禁錮</u> 5年の判決	59.9	58.8	34.7	36.4	4.2	3.9	1.3	0.9
(13) 西欧文明への <u>憧憬</u>	30.9	39.3	55.4	51.9	11.4	7.1	2.3	1.7
(14) 不安が <u>払拭</u> できない	57.6	60.7	36.1	34.6	5.0	3.8	1.4	0.9
(15) <u>凄惨</u> な光景に立ち尽くす	42.2	47.8	50.2	47.0	6.3	4.2	1.4	1.0
(16) <u>羨望</u> 的となる	50.7	57.6	42.6	36.5	5.4	5.0	1.3	0.9
(17) 無用な <u>詮索</u> はしない	56.8	64.2	36.5	32.5	5.1	2.6	1.6	0.6
(18) サケが急流を <u>遡上</u> する	40.6	41.5	50.8	51.8	7.2	5.5	1.4	1.2
(19) 未 <u>曽</u> 有の大事件	48.9	55.8	43.7	38.5	6.1	4.5	1.3	1.2
(20) 経営が破 <u>綻</u> する	65.7	68.9	29.3	26.9	3.9	3.3	1.1	0.8
(21) <u>緻密</u> な調査を行う	43.3	47.0	48.2	46.6	7.1	5.3	1.5	1.1
(22) 道路工事の <u>進捗</u> 状況	49.8	49.9	42.7	43.4	5.9	5.6	1.6	1.0
(23) 赤字を <u>補填</u> する	46.3	47.7	44.4	46.4	8.0	5.1	1.2	0.8
(24) <u>汎用</u> 性の高い機械	47.8	50.8	44.0	44.0	6.2	4.0	2.0	1.2
(25) 事実を <u>隠蔽</u> する	41.6	33.3	48.1	55.1	8.7	10.4	1.6	1.3
(26) 人形浄 <u>瑠璃</u> の上演	55.3	70.0	37.6	26.0	6.0	3.4	1.2	0.6
(27) 賄 <u>賂</u> を受け取る	57.3	54.1	36.6	40.8	4.7	4.0	1.4	1.1
(28) 山 <u>麓</u> に広がる牧場	54.1	65.7	38.8	30.6	5.8	3.2	1.3	0.5

問 10 で取り上げた 28 の漢字による表記は、平成 21 年度に行った同様の調査の結果に基づいて選定したものである。

平成 21 年度調査では、平成 22 年に「常用漢字表」が改定されるのに先立ち、「常用漢字表」への追加候補漢字に対する国民の意識を調査するため、174 の漢字による表記について、どのように感じるかを今年度調査と同じ選択肢を示して尋ねた。この 174 の表記は、平成 22 年内閣告示「常用漢字表」に追加された 196 字(当時は追加候補漢字)のうち、都道府県名に使われる 11 字を除いた 185 字を 174 の語として示したものである。(平成 21 年度調査では、この 174 の漢字による表記について、a, b, c の三つのグループに対し、それぞれ 58 ずつ尋ねた。)

今回の調査は、平成 21 年度調査で「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」と回答した人の割合が 70.0%以下であった 55 の漢字による表記を対象に、国民の意識の推移を調査しようとするものである。今年度と令和 2 年度の 2 回に分けて調査を行うこととし、1 回目となる今年度は、その約半数に当たる 28 の表記について調査を行った。

今回の調査結果では、28 の漢字による表記について、「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」は、割合が高い順に、「(20)経営が破綻する」(65.7%)、「(12)禁錮5年の判決」(59.9%)、「(7)決戦の火蓋を切る」と「(10)彼の将来を危惧する」(それぞれ 58.3%)となっている。

一方、「読みにくいので、振り仮名を付けるのが望ましい」は、割合が高い順に、「(2)彼は驚くほど語彙が豊富だ」(60.9%)、「(9)錦秋の京都を訪ねる」(57.4%)、「(13)西欧文明への憧憬」(55.4%)となっている。「読みにくいので、仮名書きが望ましい」は、「(2)彼は驚くほど語彙が豊富だ」(11.6%)、「(8)名誉を毀損する」(11.5%)、「(13)西欧文明への憧憬」(11.4%)となっている。

過去の調査結果(平成 21 年度)と比較すると、「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」が 5 ポイント以上増加しているのは、「(25)隠蔽」(8P増)、「(3)憂鬱」(6P増)、「(8)毀損」(5P増)である。

一方、「読みにくいので、振り仮名を付けるのが望ましい」が 10 ポイント以上増加しているのは、「(9)錦秋」(14 P増)、「(26)浄瑠璃」(12P増)、「(4)歯牙」(11P増)、「(5)楷書」(10P増)である。「読みにくいので、仮名書きが望ましい」が 4 ポイント以上増加しているのは、「(4)歯牙」(5P増)、「(6)俳諧」(4P増)、「(13)憧憬」(4P増)、「(9)錦秋」(4P増)である。

## V 新しい表現に対する印象や、慣用句等の認識と使用

「～活」「～ハラ」などの表現は気になるか〈問 11〉(P.41)

—「～活」,「～ビズ」は約9割が気にならないと回答 —

### 〔全体〕

「～活」(「婚活」や「終活」など), 「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)など, いろいろな語に付く表現を五つ挙げて, 自分が使う(ことがあると思う)か, また, 他人が言うのが気になるかをそれぞれ尋ねた。結果は, 下の表のとおり。

〈問 11 次の表現は気になるか〉(数字は%)

	自分も使うし, 他人が言うのも気にならない	自分は使わないが, 他人が言うのは気にならない	自分は使うが, 他人が言うのは気になる	自分は使わないし, 他人が言うのも気になる	どれに近いとも言えない	分からない
(1) 「～活」(「婚活」や「終活」など)	52.7	37.9	1.7	5.4	0.9	1.4
(2) 「～ビズ」(「クールビズ」や「ウォームビズ」など)	40.7	46.9	1.0	7.8	0.9	2.8
(3) 「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)	54.4	28.1	3.7	11.1	0.7	1.9
(4) 「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」など)	22.5	35.1	4.1	32.5	1.3	4.5
(5) 「アラ～」(「アラサー」や「アラフィフ」など)	33.5	42.4	2.4	16.3	1.1	4.3

(1)～(5)のそれぞれについて, 自分は使うかどうか, 他人が言うのが気になるかどうかでまとめた結果は, 下の表のとおり。

〈問 11 次の表現は気になるか(小計)〉(数字は%)

	自分は使う(計)	自分は使わない(計)	他人が言うのが気になる(計)	他人が言うのは気にならない(計)
(1) 「～活」(「婚活」や「終活」など)	54.4	43.3	7.1	90.6
(2) 「～ビズ」(「クールビズ」や「ウォームビズ」など)	41.7	54.7	8.8	87.6
(3) 「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)	58.1	39.3	14.8	82.5
(4) 「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」など)	26.6	67.6	36.6	57.6
(5) 「アラ～」(「アラサー」や「アラフィフ」など)	35.9	58.7	18.7	75.9

\*1 「自分は使う(計)」…「自分も使う(又は使うことがあると思う)し, 他人が言うのも気にならない」と「自分は使う(又は使うことがあると思う)が, 他人が言うのは気になる」の計

\*2 「自分は使わない(計)」…「自分は使わないが, 他人が言うのは気にならない」と「自分は使わないし, 他人が言うのも気になる」の計

\*3 「他人が言うのが気になる(計)」…「自分は使う(又は使うことがあると思う)が, 他人が言うのは気になる」と「自分は使わないし, 他人が言うのも気になる」の計

\*4 「他人が言うのは気にならない(計)」…「自分も使う(又は使うことがあると思う)し, 他人が言うのも気にならない」と「自分は使わないが, 他人が言うのは気にならない」の計

「自分は使う(計)」は、(3)「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)が最も高く 58.1%、次いで(1)「～活」(「婚活」や「終活」など)が 54.4%となっている。一方、「自分は使わない(計)」は、(4)「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」など)が最も高く 67.6%となっている。

(1)～(5)の全てで、「他人が言うのは気にならない(計)」は、「他人が言うのが気になる(計)」より高く、(4)「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」など)を除いて 75%以上となっている。

(3)「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)を除いて、「自分は使う(計)」の割合が高いものは、「他人が言うのが気になる(計)」の割合が低くなる傾向にあるが、(3)「～ハラ」は、「自分は使う(計)」が(1)～(5)の中で最も高い一方、「他人が言うのが気になる(計)」の割合が(1)～(5)の中で3番目に高くなっている。

「自分は使う(又は使うことがあると思う)が、他人が言うのは気になる」は、(1)～(5)の全てで 5%未満となっている。

## 〔性別〕

性別に見ると、下の表のとおり。

〈問 11 次の表現は気になるか(性別)〉(数字は%)

	自分は使う(計)		他人が言うのが気になる(計)	
	男性	女性	男性	女性
(1) 「～活」(「婚活」や「終活」など)	48.9	59.2	8.2	6.2
(2) 「～ビズ」(「クールビズ」や「ウォームビズ」など)	43.4	40.2	9.4	8.3
(3) 「～ハラ」(「パワハラ」や「モラハラ」など)	59.4	57.0	14.9	14.8
(4) 「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」など)	24.5	28.4	36.2	36.8
(5) 「アラ～」(「アラサー」や「アラフィフ」など)	32.5	38.7	21.4	16.4

「自分は使う(計)」については、(1)「～活」(男性 48.9%、女性 59.2%)は女性の方が 10 ポイント高く、(5)「アラ～」(男性 32.5%、女性 38.7%)は女性の方が 6 ポイント高くなっている。

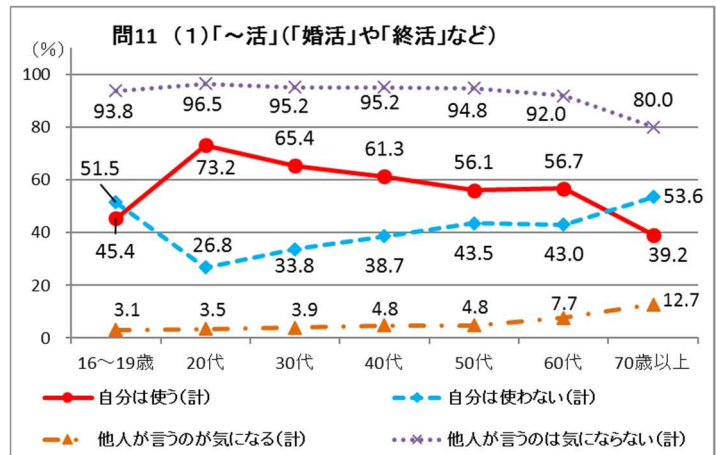
「他人が言うのが気になる(計)」については、(5)「アラ～」(男性 21.4%、女性 16.4%)は男性の方が 5 ポイント高くなっている。

## 〔年齢別〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

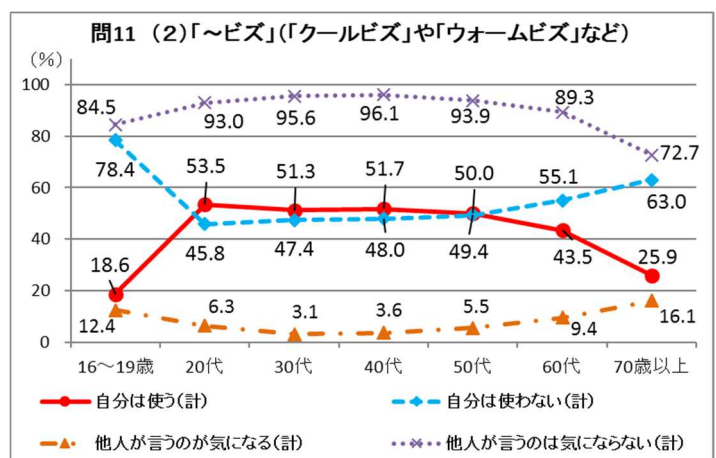
### (1) 「～活」(「婚活」や「終活」などとして用いられる)

「他人が言うのは気にならない(計)」は、全ての年代で8割以上となっている。「自分は使う(計)」は、20代で最も高く73.2%、次いで30代で65.4%となっている。



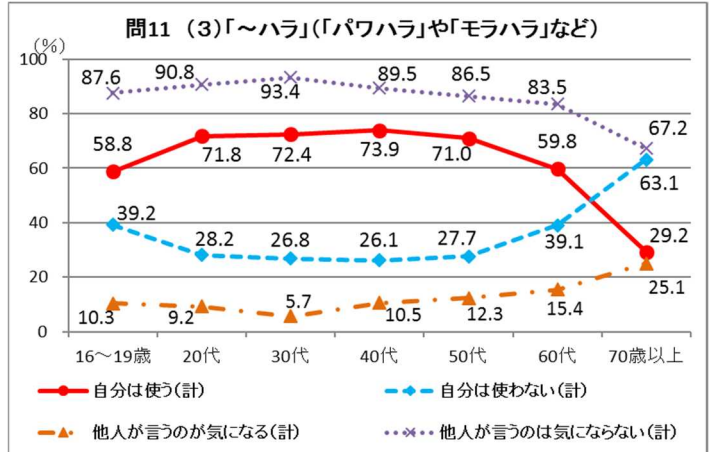
### (2) 「～ビズ」(「クールビズ」や「ウォームビズ」などとして用いられる)

「他人が言うのは気にならない(計)」は、全ての年代で7割以上となっている。一方、「他人が言うのは気になる(計)」は、70歳以上で他の年代より高く16.1%となっている。「自分は使わない(計)」は、16～19歳で他の年代より高く78.4%となっている。



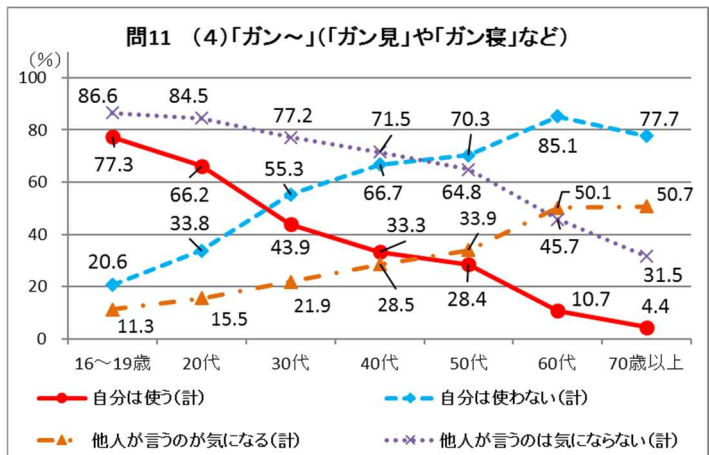
(3) 「～ハラ」(「パウハラ」や「モラハラ」などとして用いられる)

「他人が言うのは気にならない(計)」は、70歳以上を除く全ての年代で8割以上となっている。一方、「他人が言うのは気になる(計)」は、70歳以上で他の年代より高く25.1%となっている。「自分は使う(計)」は、20～50代で「自分は使わない(計)」より40ポイント以上高くなっている。一方、「自分は使わない(計)」は、70歳以上で他の年代より高く63.1%となっている。



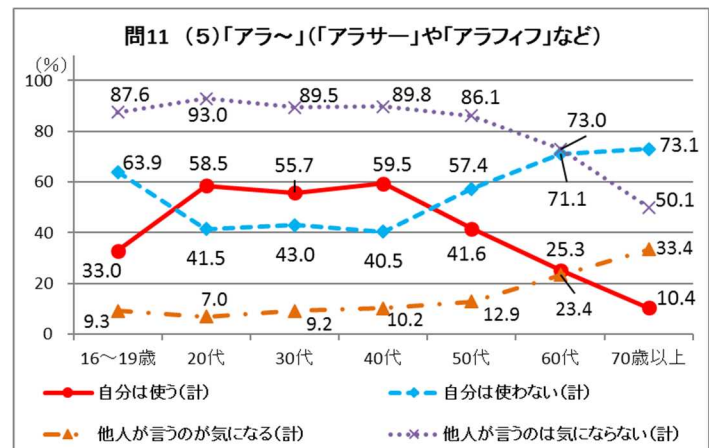
(4) 「ガン～」(「ガン見」や「ガン寝」などとして用いられる)

「自分は使う(計)」は、70歳以上(4.4%)から16～19歳(77.3%)に掛けて年代が下がるに従って割合が高くなっている。一方、「自分は使わない(計)」は、60代で他の年代より高く8割台半ばとなっている。「他人が言うのは気になる(計)」は、16～19歳(11.3%)から70歳以上(50.7%)に掛けて年代が上がるに従って割合が高くなっている。



(5) 「アラ～」(「アラサー」や「アラフィフ」などとして用いられる)

「他人が言うのは気にならない(計)」は、70歳以上を除く全ての年代で7割以上となっている。一方、「他人が言うのは気になる(計)」は、70歳以上で他の年代より高く33.4%となっている。「自分は使う(計)」は20～40代で他の年代より高く5割台後半となっている。





「手をこまねく」「敷居が高い」等の慣用句は、どちらの意味だと思うか〈問 12〉(P.47)  
 —いずれも本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されている—

〔全体・過去の調査との比較〕

「手をこまねく」「敷居が高い」など、三つの慣用句を挙げて、どの意味だと思うかを尋ねた。

結果は下の表のとおり。なお、辞書等で主に本来の意味とされてきたものを太字で記した。

今回尋ねた三つの慣用句のうち、「(1)手をこまねく」、「(2)敷居が高い」、「(3)浮足立つ」全て、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されるという結果となっている。

過去の調査結果(1)、(2)は平成 20 年度。なお、(3)は新規の問いと比較すると、本来の意味とされてきた方を選択した人の割合が、(1)「手をこまねく」、(2)「敷居が高い」のいずれも減少している。

〈問 12 どちらの意味だと思うか〉(数字は%)

		令和元年度	平成 20 年度
(1)	「手をこまねく」		
	<b>(ア)何もせずに傍観している</b>	<b>37.2</b>	<b>40.1</b>
	(イ)準備して待ち構える	47.4	45.6
	(ア)と(イ)の両方	4.6	2.9
	(ア),(イ)とは、全く別の意味	3.3	2.0
	分からない	7.5	9.4
(2)	「敷居が高い」		
	<b>(ア)相手に不義理などをしてしまい、行きにくい</b>	<b>29.0</b>	<b>42.1</b>
	(イ)高級すぎたり、上品過ぎたりして、入りにくい	56.4	45.6
	(ア)と(イ)の両方	12.2	10.1
	(ア),(イ)とは、全く別の意味	0.6	0.3
	分からない	1.9	1.9
(3)	「浮足立つ」		
	(ア)喜びや期待を感じ、落ち着かずそわそわしている	60.1	
	<b>(イ)恐れや不安を感じ、落ち着かずそわそわしている</b>	<b>26.1</b>	
	(ア)と(イ)の両方	9.6	
	(ア),(イ)とは、全く別の意味	0.4	
	分からない	3.8	

〔年齢別〕

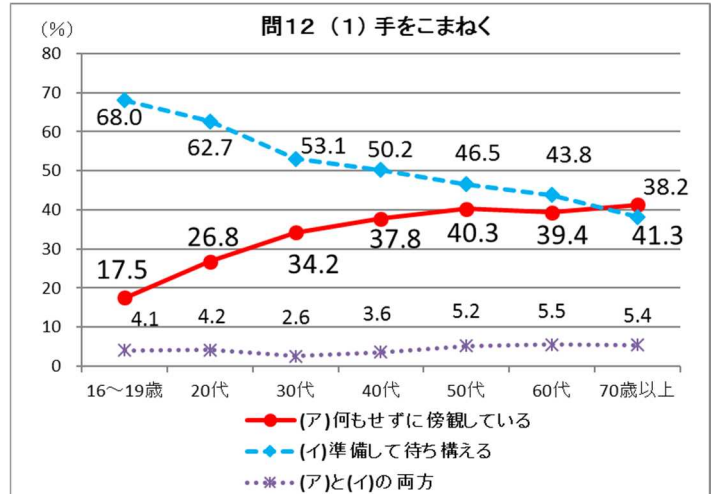
それぞれの慣用句を年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

※ 辞書等で主に本来の意味とされてきたものを実線（—）で表示した。

### (1) 手をこまねく

70歳以上を除く全ての年代で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「準備して待ち構える」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「何もせずに傍観している」を上回っている。

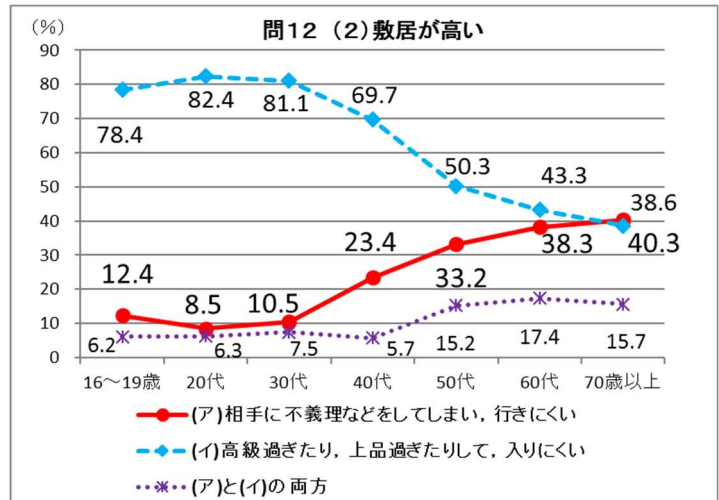
中でも、20代以下では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に30ポイント以上の差がある。



### (2) 敷居が高い

70歳以上を除く全ての年代で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「高級過ぎたり、上品過ぎたりして、入りにくい」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「相手に不義理などをしてしまい、行きにくい」を上回っている。

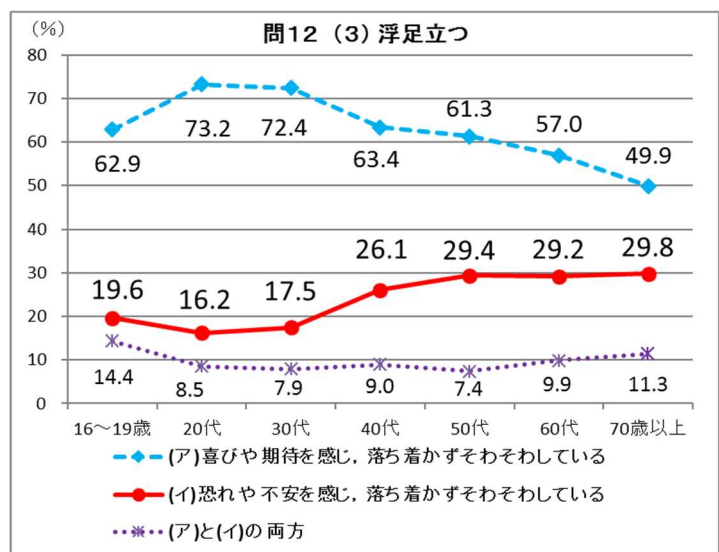
中でも、40代以下では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に40ポイント以上の差がある。



### (3) 浮足立つ

全ての年代で、(ア)「喜びや期待を感じ、落ち着かずそわそわしている」を選択した人の割合が、辞書等で本来の意味とされてきた(イ)「恐れや不安を感じ、落ち着かずそわそわしている」を上回っている。

中でも、20~30代では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に50ポイント以上の差がある。



「雪辱を果たす／雪辱を晴らす」等の言い方は、どちらを使うか問 13> (P.51)

— 本来の言い方とされてきた「噛(か)んで含めるように」を使う割合が増加、「雪辱を果たす」は減少—

〔 全体・過去の調査との比較 〕

「雪辱を果たす／雪辱を晴らす」など、3組の慣用句について、二つの言い方のうち、どちらを使うかを尋ねた。結果は下の表のとおり。なお、辞書等で主に本来の言い方とされてきたものを太字で記した。

(1), (2)は、辞書等で本来の言い方とされてきた「(a) 新規まき直し」, 「(a) 雪辱を果たす」を使う割合が、それぞれ、本来の言い方とされてきたものとは異なる「(b) 新規まき返し」, 「(b) 雪辱を晴らす」を下回っている。一方、(3)は、本来の言い方とされてきた「(b)噛(か)んで含めるように」が、「(a)噛んで含むように」を上回っている。

過去の調査結果((2)は平成 22 年度, (3)は 20 年度。なお, (1)は新規の問い)と比較すると, (2)は、本来の言い方とされてきた「(a) 雪辱を果たす」を使う割合が減少している。一方, (3)は、本来の言い方とされてきた「(b) 噛んで含めるように」を使う割合が増加している。

〈 問 13 どちらを使うか 〉(数字は%)

(1)	「今までのことを改め、最初から始めること」を	令和元年度	
	<b>(a)新規まき直し</b>	<b>42.7</b>	
	(b)新規まき返し	44.4	
	(a)と(b)の両方とも使う	1.9	
	(a)と(b)のどちらも使わない	8.8	
	分からない	2.2	
(2)	「前に負けた相手に勝つこと」を	令和元年度	平成 22 年度
	<b>(a)雪辱を果たす</b>	<b>38.3</b>	<b>43.3</b>
	(b)雪辱を晴らす	50.5	43.9
	(a)と(b)の両方とも使う	3.7	5.8
	(a)と(b)のどちらも使わない	5.7	4.8
	分からない	1.9	2.2
(3)	「よく分かるように丁寧に説明すること」を	令和元年度	平成 20 年度
	(a)噛んで含むように	31.9	39.7
	<b>(b)噛んで含めるように</b>	<b>50.5</b>	<b>43.9</b>
	(a)と(b)の両方とも使う	3.6	2.9
	(a)と(b)のどちらも使わない	10.7	11.2
	分からない	3.3	2.7

〔 年齢別 〕

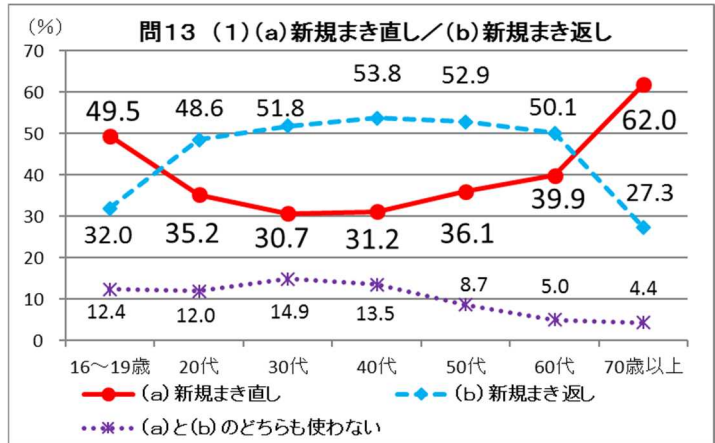
それぞれの慣用句を年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

※ 辞書等で主に本来の言い方とされてきたものを実線（—）で表示した。

(1) (a) 新規まき直し / (b) 新規まき返し

20代～60代では、辞書等で本来の言い方とされてきたものとは異なる(b)「新規まき返し」を選択した人の割合が、本来の言い方とされてきた(a)「新規まき直し」を上回っている。

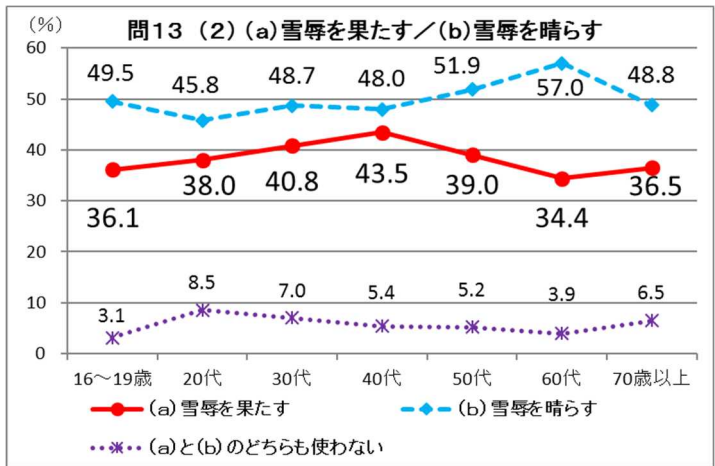
また、「(a)と(b)のどちらも使わない」を選択した人の割合は、40代以下では1割を超えている。



(2) (a) 雪辱を果たす / (b) 雪辱を晴らす

全ての年代で、辞書等で本来の言い方とされてきたものとは異なる(b)「雪辱を晴らす」を選択した人の割合が、本来の言い方とされてきた(a)「雪辱を果たす」を選択した人を上回っている。

中でも、60代では(a)を選択した人の割合と(b)を選択した人との割合に20ポイント以上の差がある。



(3) (a) 噛んで含むように / (b) 噛んで含めるように

16～19歳を除く全ての年代で、辞書等で本来の言い方とされてきた(b)「噛んで含むように」を選択した人の割合が、(a)「噛んで含めるように」を選択した人を上回っている。

中でも、70歳以上では(a)を選択した人の割合と(b)を選択した人との割合に30ポイント以上の差がある。

また、「(a)と(b)のどちらも使わない」を選択した人の割合が、30代以下で1割台半ば～2割台前半となっている。

